



日ごろからの備えは継続的に！

4月27日、マグニチュード（M）8以上の後発地震への備えを呼びかける「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について、政府は午後5時をもって対象地域への特別な注意の呼びかけを終了しました。大規模地震への警戒を呼びかける情報が相次いで出ているため、「慣れによる警戒の薄れ」も懸念されています。

政府は「地震発生の可能性がなくなったわけではないため、備えの継続が求められる。突発的に大規模地震が発生する可能性もある。日頃からの備えを引き続き実施してほしい」と呼びかけています。

そうした中、関西大学の林能成教授（地震防災・地震学）は、以下のように指摘しています。

- ◆ 短期間に注意情報が立て続けに出ることで国民が慣れてしまうのは当然。
- ◆ 特別な備えを呼びかける注意情報の期間が終わっただけで、1週間という期間に地震学的な根拠はない。
- ◆ 注意情報が終了しても地震のリスクが大きく下がることはない。
- ◆ 防災対策は日常的に無理なくできることが重要。日頃の備えを見直す機会としてほしい。

減災や防災について「正しく恐れて、正しく備えることが欠かせない」と言われています。今後、大規模地震の発生の可能性がなくなったわけではありません！「避難場所や避難経路の確認」「家具等の固定」など、「日頃の備え」は継続的に行っていきましょう。

北海道・三陸沖 後発地震注意情報

終了